

## 神の愛は

2015年2月15日

おはようございます。昨日は何の日でしたか。そうです。バレンタインデーでした。バレンタインデーは、愛の日と言えます。日本にはホワイトデーというものもあって、女性からもらったプレゼントに男性がお返しをする日です。アメリカでは昔から、男性も女性も愛する人同士互いに花束やお菓子などあらゆるプレゼントを渡します。皆さんは、本当のバレンタインデーの話を知っていますか。

ウァレンティヌスという人のお話をご紹介します。ウァレンティヌスは、ローマ皇帝クラウディウスが治めた時代の司祭でした。クラウディウスは、キリスト教を嫌い、教会を迫害しました。当時、皇帝は結婚を法律で禁止しました。独身のほうが兵士に向いていると考えたからです。妻子持ちの兵士は、自分が死んだら妻や子供はどうなるのだろうと心配するので、士気が下がるというわけです。ウァレンティヌスはこの法律に反対でした。むしろ既婚者の兵士のほうが、できるだけ早く戦いを終わらせて家に帰ろうとするので、必死で戦うはずだと彼は考えました。ウァレンティヌスは禁令に背き、教会で結婚式を執り行い、ついには捕えられて投獄されました。ここからの話は事実か伝説か定かではありませんが、こんな言い伝えがあります。ウァレンティヌスを裁判で裁く立場の男のひとりに、盲目の娘がいました。ウァレンティヌスが娘のために祈ると、娘の目は癒され、ふたたび見えるようになったのだそうです。その結果、娘の父親はクリスチャンになったと言われています。ウァレンティヌスは獄中にいながら、この娘と恋に落ちたそうです。ウァレンティヌスは紀元269年に処刑されました。彼は最後に、自分が癒した娘に手紙をしたため、「あなたのウァレンティヌスより」と締めくくったそうです。

この話のどれくらいが史実で、どれくらいが作り話なのかはわかりません。はっきりしているのは、世界中の人が愛を祝うことです。現代社会では、残念ながら愛という言葉が頻発され、本来の意味を失っていると言えます。日本では、「愛する」の代わりによく「大好き」が使われますが、「あの映画大好き」とか「アイスクリーム大好き」、「あの歌大好き」、「あの服を着ているときの自分が大好き」などと言います。また、「妻が大好き、子どもが大好き、夫が大好き」とも言います。では、アイスクリームと夫や妻を同じくらい大好きなのでしょうか。我が子を愛するように歌を愛しているのでしょうか。もちろんそんなことはありません。アイスクリームや音楽が大好きという気持ちは、アイスクリームや音楽を味わっているという充実感です。

私によい影響を与えてくれた歌があります。ジョン・マーク・マクミラン作の「How He Loves」（神がこんなにも愛してくださる）という歌です。この歌は、私たちに對する神の愛を歌います。ジョン・マークは、愛についての歌を書いたけれど、その歌はハリウッド映画のような体裁の良い愛ではないと語ります。それは、つらいとき、どん底にいるときに愛してくれる愛です。作者自身、とてもつらかった時期にこの歌を書いたそうです。親友を交通事故で失い、なぜそんなことが起こったのか彼には納得できませんでした。神に腹を立て、神に失望したとマクミランは言います。親友の死をどう受け止めればよいのかわからなかったのです。彼は、神と話そうと決めました。そして、何も包み隠さず、正直に胸の内を神に打ち明けました。神に對する怒りや失望もすべて伝えました。そんなみっともない会話の中で、彼は神に愛されていることを感じたのです。このとき、どんなことがあっても神が愛してくださることを知りました。彼が綴ったこの歌には、私たちに對する神の愛が表されています。今日のメッセージの最後に、この歌を皆さんといっしょに聞きたいと思います。週報と一緒に歌詞のプリントをお配りしましたので、後ほどご覧ください。

今日は、私たちに對する神の愛についてお話したいと思います。

## ヨハネ第一 4 : 7-16

4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょ。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。4:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だから

らです。 **4:9** 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。 **4:10** 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。 **4:11** 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。 **4:12** いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。 **4:13** 神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。 **4:14** 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。 **4:15** だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにいます。 **4:16** 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

この箇所は、神の愛について語ります。8節で、神は愛です、とヨハネは語ります。これはとても奥深い内容ですので、どれだけ時間を費やして話しても、全体をカバーすることはできません。今日は、神の愛とはどういうものかについて5つの要点を皆さんにご紹介したいと思います。

1.神の愛は、恵みに満ちている。神の愛がどれほど恵み深いか、私たちはわかっているでしょうか。神の愛について考えるとき、私たちが受けるべきものが何であるかを理解しているでしょうか。神は私たちをありのままに愛してくださいます。どんなものをささげられるかによって神の愛は変わりません。人はよく、損得勘定で相手を評価します。または、容姿が良い、お金がある、服装が好ましいなどの理由で、人を魅力的と感じます。私たち自身には、神に魅力的だと思ってもらえるようなものは何ともありません。むしろ、私たちの罪の性質のせいで、神が私たちを毛嫌いして当然です。けれども、そんなことはなさいません。神は、罪にまみれて汚れた、悪臭を放つ私たちを愛してくださいます。

#### ローマ 5 : 6-8

**5:6** 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。 **5:7** 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。 **5:8** しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

このみことばは、私たちが罪人だったときに、神が進んでご自身の御子を私たちのためのいけにえとしてくださったと語ります。良い人のためにでも死ぬ人がいないのに、ましてや罪にまみれた人のために死ぬ人はいないと言います。これこそ、恵みに満ちた愛です。性根の腐った人のために進んで死ぬ、これこそ、私たちにはもったいない愛です。だから、恵みに満ちた愛と言えるのです。

2.神の愛は、無限である。食べ放題のレストランに行ったことがありますか。食べ放題ですから、無限にいくらでも食べられる、というわけです。けれども、実際にはそんなことはありません。席に着いて食べ始めれば、いつかお腹がいっぱいになるか、食べ物がなくなるかのどちらかです。一方、神の愛は無限で、なくなることはありません。一日中神の愛をいただいても、神にはまだまだ愛があります。神のおもなご性質のひとつは、果てしないことです。果てしないとは、限りなく偉大で無限ということ。どんなに頑張っても、神の愛の大きさや深さを測り知ることはできません。神の愛を山の高さに例えようとすれば、どんな山より高いのが神の愛です。世界一深い海の淵よりも神の愛は深いのです。

#### エペソ 3 : 17-19

**3:17** こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、 **3:18** すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、 **3:19** 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるよう。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

この箇所は、人知をはるかに超えるキリストの愛について語ります。これについて少し考えてみましょう。神の愛は人知を超えます。私たちの生きる現代は、ハイテク時代です。優れたテクノロジーは、どんな知識でもすぐさま提示してくれます。キーボードの向こうに答えが現れます。何か分からないことがあれば、スマホを取り出して、グーグルで検索すれば、すぐにその答えが出てきます。これほどの知識を集積しても、神の愛の大きさを知ることはできません。

3.神の愛は、変わることがない。人間の愛は、時とともに変わっていきます。あるときとても好きだったことも、年を重ねて趣向が変わったり、別の興味を持つようになっていたりします。日本では今、子どもたちの間で妖怪ウォッチが大流行しています。今はみんな、妖怪ウォッチが大好きです。けれども、子どもたちが大きくなるにつれて、または違ったキャラクターの登場によって、妖怪ウォッチが大好きだと言う子は減り、何か違うものに夢中になるでしょう。人は誰かを好きになったり好きでなくなったりします。それは、人の愛が変わるものだからです。神の愛は、変わることがありません。人生の新しいページごとに変わるものではありません。誰か新しい人や物が見つかったから私たちのことを愛してくださなくなる、ということはありません。神の愛は、私たちがつらいときも、暗闇にいるときも変わりません。負け続きだと感じる時も、私たちへの神の愛は変わりません。神はいつもそばにいてくださり、負け続きのときもいっしょに歩んでくださいます。神を悲しませても、私たちを愛することをやめたりなさいません。神の愛は、変わることなく続きます。ある牧師は、こう言います。「どんな犠牲を払っても愛する愛は、あなたがどんな人になっても愛してくれる愛。愛してくださる方にどんなことをしたり言ったりしても、愛してくれる愛。」これこそ、神の愛です。私たちに対する神の愛は、変わることがなく、この愛から私たちを引き離すものは何もないからです。私たちは神の愛につながっていて、神の愛から分かれたることはありません。

#### ローマ 8:35-39

**8:35** 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。 **8:36** 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。 **8:37** しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。 **8:38** 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、 **8:39** 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

35節は、「私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。」と尋ね、「患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」と続けます。聖書に書かれた答えは、何物も神の愛から私たちを引き離すことはできない、です。神の愛は変わらない無限のものですが、永遠でもあります。

次に4.です。神の愛は、永遠である。人の愛は、地上に生きる時間に制限されます。一方、神の愛は、地上の時間に制限されません。神の愛は、初めからあったもので、永遠へと続きます。

#### エレミヤ 31 : 2-3

**31:2** 【主】はこう仰せられる。「剣を免れて生き残った民は荒野で恵みを得た。イスラエルよ。出て行って休みを得よ。」 **31:3** 【主】は遠くから、私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。

これはすばらしいみことばです。考えてみてください。私たちが生まれる前から、神は私たちがいつか存在することを知ってくださっていたのです。神は、いつか私がこの地上を歩むことを知ってくださり、私という存在ができる前から、私を愛してくださったのです。今、ここで皆さんを見渡し、思います。今日皆さんひとりひとりがここに座るであろうことを、皆さんが生まれる前から神は知り、皆さんを愛していただきました。今も愛しておられます。神は、100年後に生まれる人たちも愛していただきます。神は太古の昔から、すべての人を愛し続けておられます。私たちの地上の人生が終わり、この地球に終わりが来ても、それは神の愛の終わりを意味しません。神の愛は、天国まで続き、私たちは神の愛に包まれて永遠を過ごせるのです。天の体をいただいた私たちは、そこで日夜神を礼拝し、神への愛を表します。この愛は、これまで私たちが抱いた愛とはまったく違います。人間的な愛ではありません。創造主と被造物の間で分かち合われる愛です。

最後に5.です。神の愛は、救いに至らせる愛である。

### ヨハネ 3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

このたった一節に、神の愛が要約されています。神は世を深く愛されたので、御子を犠牲とされました。それは、私たちが救われるためです。救いに至らせるこの愛は、すべての人に向けられています。誰をも排除しません。これこそ、神の愛の一番大切な側面だと私は思います。救いに至らせる神の愛がなければ、神の愛におけるその他の側面は無駄だと私は個人的に思っています。神の愛によって救われなければ、神の愛が恵みに満ちていてもいなくても同じです。無限でも意味はありません。もし、神の愛が私を救えないなら、無限ではないし、恵みにも満ちていません。神の愛が救いに至らせないなら、永遠のものでもなければ、不変でもありません。神の愛は変わることがなく無限で、恵みに満ちた永遠のものだと信じて、救われないのなら何もよいことはありません。ほかの宗教とキリスト教の違いはここに 있습니다。私たちの神は、救いに至らせる愛をもって、私たちが愛していただきます。

神の愛を円だと捉えるなら、救いに至らせる神の愛は、その円の続きを見れば永遠であることがわかります。また、円をもう少し進めば、救いに至らせる神の愛が不変であるとわかります。そして円をさらに進めば、救いに至らせる神の愛が無限であることもわかります。円を一周して戻ってくると、救いに至らせる神の愛が恵みに満ちているとわかります。円と同じで、神の愛には始まりも終わりもありません。すべての側面がひとつの円をなすのです。

今日のメッセージの締めくくりとして、先ほど皆さんにお話した歌をご紹介します。皆さん、いっしょにお聴きください。この歌は、神の愛を表しています。私たちに対する神の愛を喜び、味わってください。神の愛を経験したことがない方は、今日私がお話したことを真剣に考えてください。神はあなたを深く愛しておられます。この歌を聴きながら、神の愛について考えましょう。歌が終わったら、最後に祈りましょう。